

令和5年6月29日

## 南の風 FIBA 女子アジアカップ特集号Ⅱ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

特集号の続きです。

3Qに入ると、開始から点の取り合いとなる。高確率で得点するオーストラリアに対して、日本も負けじと得点を重ねる。8番高田、88番赤穂がジャンプシュートを決めると、23番山本は3Pのフェイクから高速ドライブを仕掛けレイアップ、また一瞬のズレを見逃さず3Pシュートも沈め追加点を入れる。残り5分半で、**55-39**とする。ディフェンスでは、59番星、75番東藤 นานาชาติが相手にしつこいプレッシャーを掛け簡単にプレーさせない。残り3分9秒、99番オコエが自身のスティールからの攻撃で3Pシュートを沈め、**65-45**と**20点差**にする。

終盤、日本は15番本橋、32番宮崎の2ガードを使用。ラストプレーで99番オコエが3Pシュートを決め3Qが終了。**《日本70-51オーストラリア》**

4Qは序盤、両者共にシュートが中々決まらない。オーストラリアは残り7分、4番が3Pシュートを決める。さらに残り6分半、24番がレイアップを決め**72-56**と点差を詰める。

シュートがリングにはじかれ続けた日本は残り6分20秒、59番星がフリースロー2本をきっちり決めると、試合の流れが変化する。32番宮崎のパスを受けた88番赤穂が、左コーナーから3Pを沈める。**77-56**と再びリードを広げる。その後も試合終了まで集中力を保った日本は、オーストラリアに主導権を渡すことはなかった。99番オコエ、59番星、そして12番朝比奈 あずさが、それぞれ3Pシュートを見事に決め、追加点を奪って勝利した。**最終スコア《日本91-66オーストラリア》**

この結果、日本のベスト4以上が確定し、オリンピック最終予選出場権（2024・2月開催予定）を奪取した。次戦は7月1日（土）、ニュージーランド（世界ランク29位）とフィリピン（世界ランク42位）の勝者と決勝トーナメント準決勝で対戦する。因みに決勝戦は7月2日（日）となる。

日本は、3Pシュート4本を決めた99番オコエが20得点でトップ。続いて23番山本が19得点（3Pシュート5本成功）、59番星が15得点をマークした。この試合、女子日本代表の3Pシュートの確率は、33本中、17本成功（51.52%）という驚異的な数字をたたき出した。リバウンド争いでは日本33-31オーストラリア、と優勢であった。またターンオーバーでは、日本11-15オーストラリアという結果であった。

勝利インタビューで恩塚ヘッドは、「選手たちの素晴らしいプレーや頑張り、胸を熱くする試合だった。オーストラリアは素晴らしいチームなので、タフな試合で我慢の展開になるだろうと思っていた」と語った。

オコエ選手は「これまでの2試合チームに貢献できなかったのが、この試合では絶対貢献しようと思ってプレーした。昨日のフィリピン戦の後ヘッドコーチやチームメイトから、『シューターとして打っていい』とアドバイスされモチベーションを上げてもらって、いいゲームができたと思う」、「オリンピック最終予選に行けることにほっとしている。まずはアジアカップで6連覇できるように、今日の自信をつなげていきたい」と語った。

**女子日本代表のアジアカップ6連覇!! みんなで応援しましょう!!!**